

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和6年10月25日（金）午後5時00分～午後6時00分
地 区	星田地区
場 所	星田会館2階会議室
参加人数	16人

テーマ1 星田地域のまちづくりについて

主 旨

- 星田地区に新しくスマートエコタウン星田が完成した。10月1日時点で1戸建て予定が200戸程度あり、110戸は既に居住されている。
- 関西電力開発不動産がエリアマネジメントをしているが、星田6・7丁目に1戸建て住宅の居住者が揃ってきていると聞いている。
- 6月に自治会を発足させた。しかし、市に対して各種提案や依頼を行うことが困難である。
- 市と共同でまちづくりを行うという趣旨のもと区長制度が存在している。
- 星田北という区でスタートさせてほしいという話もしていたが、まだ居住されていない住民も多いため、2～3年後を目途に区として独立させ、それまでは星田区に入る形で決定させていただいている。
- 現在、星田地区では7丁目や全現堂池の8・9丁目に新しい住民が居住され、過去は300戸程度の集落であったが、現在では5000戸、1万人以上が居住している。さらに星田北エリアの居住者が増えた際の今後のまちづくりをテーマとさせていただいた。

市 長

- 星田北エリアについては、素晴らしい家屋が販売され、着々と工事が進んでいる。残っているエリアについては約400戸のマンションとなり現在建設中である。
- 戸数が多いため地区として活動をしてほしい。市としても全力で支えていきたい。
- 星田北エリアの工業地域として整備された箇所は、不二鉄工所の新社屋が年内に竣工される。
- 駅前の交番移転についても、速やかに実施しなければならないと考えている。現在の交番の場所は、市立のこども園の駐車場として利用したい。駅の隣に交番があった方が良いため、今後も市として要望活動をしていく。
- 郵便局も駅前にない。土地区画整理事業にて星田駅北側ロータリーの隣に200平米の土地を確保できたため現在、郵便局に対して移転を依頼している。
- 事業に関しては交野市が過去に30億円程度で南星台の隣の土地を購入したが、土砂災害特別警戒区域に指定がされ、利活用もままならなかった。国の補助金を活用して山を削り、全現堂池を埋め、財産区にて売却する予定である。埋め立ては進んでおり、当該地については住宅や集会所が整備され、南星台についても住宅が整備され会館も建設し市に寄附される予定である。
- 防災の面では、消防団の車庫を整備したいということから、本年度土地開発公社の保有地にて設計をしている。来年度に防災倉庫等を整備し、整備後に分団庫も移転する予定である。
- 土地開発公社の土地が6丁目と9丁目にもあるため、補助金を活用し防災倉庫を整備することで、

市の負担も7割軽減される。地域と市の双方にとって良い事業になると考えている。

- 星田出張所の跡地については、分団車庫の移転後に地域と協議をしながら活用を検討したい。
- 乙辺浄化センターについては、星田地区の皆さんの理解を得ながら、4月から寝屋川市のし尿を引き受け交野市で処理をすることになった。今後、四條畷市のし尿について四條畷市と勉強会を開催する予定である。し尿を処理するにあたり道路の整備が必要である。国の補助金を活用しつつ市として都市計画道路の天の川磐船線をフレンドタウンから第二京阪国道まで整備する。また、交野市として先行取得をしている土地開発公社の土地を防災公園として整備することで、国の補助金を活用でき、実質的に市の負担はほとんど無く、道路の整備ができる。
- バスについては、地域公共交通会議にて大型の2種免許保有者でなく、大型の1種免許を所有している方であれば運転できるようになった。事業者2社と協議中であり、大型車両の運転手を確保し、地域公共交通会議にて今後のバスの提案をする予定である。11月半ばに議会に説明したいと考えている。現在のバス路線・バス停については維持をする。
- 河内磐船駅に通してほしいという要望もあるため検討する。
- 様々な事業が展開できることは、星田区と密接に連携をとれているためであると考えており大変ありがたい。

意見

- 歴史・文化も深い地域であるが、新しい住民の方の一部から祭りの深夜の笛・太鼓が安眠を妨害するといった声もある。大きい道に信号が無い課題もある。区としての役割は住民の絆作りや、ふれあい作りだと思っている。新しい住民にもイベント等に参加してもらいたい。10月に新しい住民が居住したため、歓迎の回覧を行った。イベント等の案内を随時流して、歴史等も学んでいただき、ふれあえるようなまちづくりをしていきたい。新しい自治会長とも面識はないが、これからの話を市も交えてできると良い。行政があり、自治会があり、そこに区制度がある。この仕組みつながりが新しい住民にはわかりづらい。自治会は自治会会員でエリアを管理するが、区制度は地域を一つの束として区全体の課題を市に届け、解決に向けて動いていくという仕組みである。星田は、財産区、行政、用水組合の3つの柱で過去からまちづくりをしてきたと聞いている。これからも地域として、事業を行うためには様々な組織が協力してまちを動かしていく必要がある。そういったまちづくりが星田北の皆さんに合うかを含めて、まずは星田が行っていることを理解していただくために、星田北の数名に行政委員に加入していただき体験をしてもらうことを検討している。星田北には農地はあるが、星田財産区のエリアに入るか不明のため、新しく区ができる時には市と協議をしながら進めていきたい。
- 〔市長〕一戸建ては自治会として組織済みであり、マンションについても管理組合もしくは自治会が組織されると思われる。合計600戸近くになる。市の22地区のうち、青山で300戸を切り、妙見東で約550戸であるため、地区としては十分な戸数がある。自治会と協議をしながら、地区として構成できないか相談したい。当然、星田地区の皆さんの理解を得てまちづくりができているため、星田地区と協議をしながら星田北のエリアのことも共有していきたい。

テーマ2 星田地域の地域防災力の強化について

主旨

- 地域防災力の強化のために消防団の詰め所を星田会館の近くに移転することや、防災公園・備蓄倉庫を何か所か作っていただくところで、ハードができればソフトの話になる。危機管理室と連携を深めて、今回初めて3中地区の3区合同の防災訓練を開催する。
- 星田は7区に分かれているが、7区の区長とも親睦を深め、総合連携に向けて進めている。
- 消防団のほうも7区の皆さんからの補助や、訓練への参加によりソフトの面も連携している。また団員にも各区より何名か加入いただき、地域をあげての星田分団にしていきたいと考えている。
- 市長も防災力向上のために尽力いただいているが、今後災害が発生しても、市と協力し減災できるようにしていきたい。
- 去年の防災訓練には多くの人に参加したが、星田は比較的自然災害が少なく、やはり、防災意識が低い。しかし、現在日本各地で災害が発生しているため、防災のための回覧をしている。
- 星田は、平野であるが、周辺の南星台、妙見東、妙見坂、星田西、星田山手は山間部にあるため、災害時にどのように避難をするかが重要である。星田山手は、一時避難箇所もすべて告示して、防災に取り組んでいるが、星田は200以上の町会があるため、簡単には実施できない。
- 消防自動車も更新の時期が来ており、災害時に故障をしてもいけないため、市とともに防災力を上げていきたい。

市長

- 星田は、共助の協力をいただいている。星田分団にも消防団車庫の件で協力をいただき、市内で初めて緊急防災減災事業債を活用し建て替えが実現した。
- 交野市においては消防団の車庫、備蓄倉庫の建設と合わせて避難所のエアコンの整備も進めている。枚方は都市ガスであり、寝屋川では普段都市ガスを使用し、有事の際にプロパンに切り替える。交野市においては初めから中圧ガスで設置する。中圧ガスであれば地震の際に止まることはない。すでに三中で工事を実施している。中圧ガスの管から三中まで距離がある関係上、時間はかかっているが今年度中に設置し、来年度においては妙見坂小学校、旭小学校、藤が尾小学校の体育館にエアコンを設置する。避難所にエアコンを設置する場合、国から7割の補助金が出る。
- トイレに関しては順次、中学校、小学校の大規模改修をしている。万が一、下水が使用できなくなった想定として、トイレトラックを先日2,600万円で購入した。国から7割の補助金として1800万円、寄付で1200万円、計3000万円が集まった。トイレカーも2台購入し年内に納車される。大型車両が入れるところはトイレトラックを使用し、それ以外はトイレカーを使用するという形をとる。
- 年度内には循環式シャワートラックの7割を国の補助金を活用し、足りない部分は寄付を募り、市の負担を最低限にしつつ防災力の向上に努めている。自助も重要であるが、共助でもできるだけ市として尽力したい。
- 私が懸念しているところはため池の防災対策である。星田大池は万が一決壊すると星田駅周辺が浸水する可能性がある。現在、全現堂池を埋め立てているが、完了後に地域、財産区等のご理解を得ながら、ため池の在り方については検討をしていきたい。ため池は避けては通れない課題である。

意見

- 都市計画道路の星田北線が歩道もなく危険である。星田北線の幅がもう少し広ければ良い。
→〔市長〕天の川磐船線については、先ほど回答したが、先のフレンドタウンから藤が尾の道路に関しては、過去にフレンドタウン側から JR のアンダーパスの下を潜る提案がされた。市が提案を受け入れ地区計画ができ、その後府の開発許可により現在に至っている。残念ながら、道路に関しては、そのままになっており、開発が終わっていない状況になっている。市としては約束の履行を求めている。都市計画道路は交野市内ではおおよそ廃止になったが、残っているのが星田北線と私部のココイチのところである。天の川磐船線の幅が26メートルの2車線分の幅であるが、実際1車線しかないため、幅を19メートルにする。完了次第、残りの都市計画道路を整備したい。しかし、星田北線は距離が長いので区域を分けて整備する必要があると考えている。
- 地域・市から要望を受けている星田交番の件は、大阪府で行っているが時間がかかっている。代替地も用意いただいているため、コミュニティーセンターの駐車場の活用も含めて、共に進めていきたいと考えている。
- 星田行政区は現在約4,000軒、約1万人が住んでいる。地区の方が15名で作業をしている。星田北エリアのことも考えることは困難。市としてどこまで参画してくれるのか。開発したあとのまちづくりにも交野市は参画してくれるのか。
→〔市長〕関電不動産が開発するにあたり一戸建て住宅の自治会が形成され集会所もできた。また、住民サービス提供として別に建物も整備されている。自治会の集会所は市に寄付される。居住条件として自治会に加入が必要である。行政との協議でその仕組みになった。マンションもできるが、同じく関電不動産であるため、自治会組織は形成される。脱退ができない自治会が組織されるため、行政区の構成ができないのであれば自治会から市に協議をすることはありうると考えている。星田として星田北エリアを管理できないのであれば、2地区と協議する必要があると考えている。
- 星田だけでなく、交野市全体として開発があればトラブルのないようにしてほしい。
→〔市長〕寺・向井田の開発もある。星田北エリアの大規模な開発は今後のまちづくりの参考にしていきたい。住民、地区、自治会、開発事業者と共に協議をしながら進めていきたい。
- 交番は70年経過しなければ立て直しができないと聞いているが、立て直しをしてほしい。
→〔市長〕市が土地を用意し、市が全額を出して建物を建設する提案をしたが地方財政法上、大阪府が本来出すところを交野市が代わりに出すことは却下された。過去、郡津駅前の交番を交野市駅前に移転させた。交野市が移転させたが、現状は困難と言われている。
- 星田北エリアができたが、交番が1つで足りるのかという問題もある。
→〔市長〕交野警察署管内で交番が8か所ある。人口・面積ともに枚方のほうが多いが、交野市に4か所あるため、有利である。しかし、大阪府警察本部では交番の数を減少させている。
- 民生委員をしている。開発時に説明会にも出席したが、校区の問題がある。星田小学校は適正規模が小さく、人口が増えた際に入学ができないため、藤が尾小学校、旭小学校に入学するという話になった。販売するときに不動産屋がどこの小学校校区になるか指定する必要がある。民生委員の区割りは中学校区ごとの区割りであるが、三中校区と四中校区が混在している。それは防災ともリンクしており、説明会の時にも言ったが、教育委員会は縦割り行政で、学校の適正規模を見てどこに分けるかという話をする。しかし、民生委員レベルでは三中校区の人が四中校区も見るとかや

やこしくなっている。市の方である程度、星田北区ができた時にきちんと、どこに所属するのか指定が必要である。小学校、中学校区の問題だけでなく、年配の方が避難場所としてどこに避難すれば良いのかははっきりさせることも課題でもある。市としてこの区域をどのように分けていくのか。
→〔市長〕当初、教育委員会では、星田北はすべて藤が尾小学校にする予定であった。しかし、元から星田小学校に通っているエリアから反対があった。そのため星田小学校のままになった経緯がある。教育委員会は別組織になるが、市と全く別ではないと考えている。星田北の住民の中には開発で立ち退きになった方もいる。元々星田小学校に通っていたが、移転のために藤が尾小学校に通うことを納得いただくことは困難。その方々に関しては、結果として星田小学校に残留になった。それ以外の方は藤が尾小学校になっており非常に悩ましい。それを変えることは現状困難である。しかし、今後三中校区の見直しは行わないかという別の話になるため、その際に改めて住民と議論できればと思っている。

妙見坂小学校の一部が土砂災害警戒区域になっているなど、各学校に課題がある。しかし、一中の跡地利用ですら来年度から建物を壊して、その後に検討するため、学校の修理・利活用は今後3～4年は身動きが取れない。時期がくれば、三中校区と四中校区、星田小学校と藤が尾小学校に分かれている課題については解消したいと考えている。

- 星田地区の山手側では環境が良いため新築家屋が建っている。しかし元々は田んぼであり、雨を蓄える土地であった。最近では雨が降ると川がすぐに溢れる。開発と河川管理がリンクしていない。
→〔市長〕交野市は天野川流域と寝屋川流域に属している。寝屋川流域には星田西と星田山手、南星台、星田の一部が属している。他は天野川流域である。寝屋川は特定都市河川であり氾濫しやすい。排水が1本の川でのみ大阪湾に流れるため、排水の抑制が非常に困難。天野川流域はそういった規制がないため、開発時に排水機能を持たずとも良い。例外的に調整区域の開発時には求められるが規制が緩い。星田は傾斜が大きい地域であるため、他の地域に比べると浸水、洪水の指定区域が防災マップ上でも少ない。今後、ため池の防災を考慮しているが、単に開発をするだけでは国から補助金がでないため、5～10年の間は防災公園とすることで補助金が出る。その際に排水の抑制機能については検討する。
- 既存の川・溝を拡幅してほしい。開発の確認申請をした段階で、水の流れを検討してほしい。
→〔市長〕寝屋川流域以外で行うことは困難。実施するには調整区域にて地区計画で提案する方法しかない。過去は開発の分担金をプールして浸水対策もできたが、分担金をとることは現在では厳しい。市としては公共事業の中で浸水対策をするしかない。
- 全現堂池を埋めるにあたり、それに対する補償井戸を会館に掘る件で、まだ工事が開始していない。来年3月4月の田植えの時期には水がいる。井戸を掘るには3か月はかかるため、早急に開始してもらいたい。